

会議録

会議の名称	令和2年度第1回加東市総合教育会議
開催日時	令和2年7月31日（金）午前10時から午前11時35分まで
開催場所	加東市役所 2階 201会議室
<p>議長の氏名（市長 安田正義）</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><出席委員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長 安田正義 ・教育長 藤本謙造 ・教育長職務代理者 田中寿一 ・教育委員 藤本洋二、藤原哲史、後藤純子 <p><欠席委員></p> <p>なし</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>なし</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副市長 岩根正 ・教育振興部長 田中孝明 ・子ども未来部長 広西英二 ・子ども未来部参事兼学校教育課長 後藤浩美 ・教育総務課長 菅野勇一 ・学校給食センター所長 簗田順子 ・生涯学習課長 長田徹 ・中央図書館長 田中美紀子 ・子ども教育課長 壺井初美 ・小中一貫教育推進室長 柴崎俊之 ・発達サポートセンター所長 片嶋美紀 ・教育総務課副課長 徳岡あけみ ・まちづくり政策部長 小林勝成 ・企画政策課長 下岡正裕 ・企画政策課副課長 山本幸平 ・企画政策課主査 村上計太 ・企画政策課主査 白井隆寛 	
<p>1 議題</p> <p>(1) 加東市教育大綱における各施策の取組状況について</p> <p>(2) 次期加東市教育大綱について</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症への今後の対応について</p> <p>2 資料名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料No.1 加東市教育大綱における各施策の取組状況について ・資料No.2 次期加東市教育大綱について ・資料No.3 新型コロナウイルス感染症への今後の対応について <p>3 会議の結果及び経過</p> <p>⇒別紙「令和2年度第1回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過」のとおり</p>	

(別紙) 令和2年度第1回加東市総合教育会議・会議の結果及び経過

発言者	会議の結果及び経過 / 発言内容
議長 (市長)	<p>1 開会</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>3 協議 (1) 加東市教育大綱における各施策の取組状況について (2) 次期加東市教育大綱について</p> <p>加東市では、平成28年に加東市教育大綱を策定し、教育委員会と連携しながら様々な教育施策を展開しています。今年度で現行の教育大綱の対象期間が終了しますので、令和3年度以降加東市で取り組むべき教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策についての基本的な方針を示す第2期加東市教育大綱を策定したいと考えています。今回の会議では、これまでの各施策の取組の成果と課題、そして、課題を解決していくための今後の取組について意見を伺いたいと思います。</p> <p>資料No.1と資料No.2に基づき事務局から説明</p>
議長 (市長)	<p>ただいま、現行の教育大綱における各施策の取組状況、次期加東市教育大綱の策定に向けてのスケジュールを含めた説明をしました。この説明について、委員さんから意見等をいただければと思います。</p>
委員	<p>毎年、年が明けると同じような夏がやってくると思っていたのですが、今年は新型コロナウイルスの影響が大きく、毎年毎年同じことの繰り返し、それが当たり前のように思っていました。もうそういう時代じゃないのだなと感じています。また、報告いただいた東条学園については、これから校舎の建設にかかっていきますが、ここに至るまで、本当に多くの方が、努力と苦勞をされて、具体的に進んでいくことはうれしく思います。このことにより、加東の教育がさらに良い方向に進んでいくと思います。</p> <p>非常に大きな話になるのですが、子どもの姿がどうなのかという視点で考えると、全体を見ることも必要だと感じました。全国学力・学習状況調査の結果は、毎年変わりますが、加東の子どもで学校に行くのが楽しいと答えたのは、小学6年生は86.4%、中学3年生は83.9%です。そして、各学校に訪問しても、全体的に真面目に一生懸命取り組むことを価値のあることと認識し、子どもたちが真面目に取り組んでいると感じるシーンが多いです。一時期は、社会全体で真面目が軽視される風潮がありましたが、加東の中で、真面目に学習や生活、部活に取り組んでいる姿を見て、非常にうれしいと思います。その証拠に、小中学生だけでなく高校生も、見も知らない私に挨拶をしてくれることも結構あります。また、非行など具体的な数字はつかんでいませんが、学校等での問題行動の発生は少ない、そういう意識を持っています。いじめについても重大な案件はないという認識をしています。そして、何よりも平成27年の子どもたちへの調査では、自分によいところがあると思うかというのが、小学6年生は75.2%、それが平成31年の調査では89.4%に、中学3年生は64.5%が78.5%に、自分によいところがあると思うと子どもたちが感じており、全国の平均と比べても非常に高い。教育は、もちろん社会の要求に応える力をつけることも大切ですが、自分がよりよく生きていく力をつけることが、とても大切だと思いますので、</p>

	<p>自尊心につながっているというのは、ここにも挙がっているように、人権教育の推進を学校教育の基点にやっている面での成果を感じています。</p> <p>それと、学校の決まりを守っていますかという調査から、小学6年生で97%、中学3年生で97.6%と、毎年大きな変化はないが、学校の決まりを尊重しながら子どもたちは生活をしている、そういった数字が調査からもつかめています。現在の子どもの姿がこういった調査からも浮き彫りになっていると思います。</p> <p>少し話が飛びますが、加東市内でも複式の学級があるが、子どもたちが学ぶよりよい環境というのは、1つの学級で30人前後の子どもたちがいて、毎年学級編制、クラス替えがある、そして、多くの子どもたちと競い合う場面が必要だと思います。そういった環境づくりは、抜本的な改革なしではできないし、そういう面で、小中一貫校に向けて進んでいただき、大きな枠組みの中で子どもたちにふさわしい環境をつくっていく取組については、今後一層進めていただきたいと思っています。</p>
議長 (市長)	<p>今のお話の中で、いわゆる学校規模の差がどんどん広がっている。そんな状況が全国的に広がっていると思っています。その原因として、いわゆる少子化が大きくかかわっている。少子化のなかでも子どもたちへ提供する学校環境の差は広げないようにする、そういったことが小中一貫校の整備によって解消されればと思っています。</p>
委員	<p>先ほどの報告の中で、学力や学習に向かう力の向上にはまだまだ課題もある状況のようですが、私個人としては、今まで授業を見た教室の中では、とてもいい雰囲気の中で授業がされている。子どもたちも授業に集中して、よく考えて発表している。そして、授業の進捗状況を見ていると、しっかり勉強に臨んでいるし、よく理解しているという認識で思っています。</p> <p>それと、教育大綱についてですが、資料2にも書いてあるとおり、教育振興基本計画の策定委員会が既にスタートしており、内容の検討を始めているので、第3期加東市教育振興基本計画の検討状況にあわせて教育大綱の策定に向けて取り組んでいただきたいと思っています。</p>
委員	<p>子どもが学校に通っている間、人権の勉強会や、文化芸術の講演会に参加していたのですが、そういう取組が、説明されたことにつながっていると実感しました。やはり子どもたちへの教育とともに、親への教育、親も一緒に成長していくうえで、とても役に立つ内容のものが多かったので、これからも取り組んでいただけならと思います。</p>
委員	<p>第1期の教育大綱、第2期の教育振興基本計画などの平成28年度からの取組の報告をいただいて、改めて基本方針を見ながら報告を聞きました。新しい時代を迎えるに当たり、新しい地域づくり、加東市づくりをするに当たっての基本方針が、考えられていて、このとおり進んできたことを、改めて振り返りました。</p> <p>教育大綱の基本方針にあるように、ほかの市に先駆け、ICT教育の充実が図られてきたこと、小中一貫校、少子・高齢化に対応した学校づくり、まちづくりに取り組んできたこと、高齢化社会を見据えて生涯学習や図書館教育をはじめとしたさまざまな社会教育の取組が広がってきたこと、それから、特別支援教育などさまざまな支援を要する人たちへのインクルーシブ教育の拠点となる「はぴあ」が完成したこと等々、さまざまな5年間の取組があったことを改めて確認をしました。人間力の育成、学びから新しい自分づくりと地域づくりを目指すという基本理念がありますが、まさにこの新しい自分づくりと地域づくりが一体的に進め</p>

	<p>ていかなければならないこと、このスローガンはそういう意味だったということ を改めて確認をしました。報告を聞くと、課題もたくさんありますが、方向性として はいいと思います。</p> <p>小中一貫校は、この5年間で方向性が決まり、次の5年間で小中一貫教育が始 まろうとしています。その中で、さまざまな取組をしていると思いますが、教育 は学校だけではできないというのが現在の認識だと理解をしています。地域と一 体となって、地域で子どもを育てる。その足がかりとして、小中一貫教育で取り 組んでいるかとう学があり、かとう学を中心としながら地域で学ぶ、地域を学ぶ ということを超えて、地域で育てる、地域を育てるという新たな可能性を感じて います。というのは、かとう学でさまざまな地域について子どもたちが学習をし ています。そこで学んだことを地域へ発信をしていく、地域へ発信したことを地 域の人たちが受けとめて、新たな地域の可能性や、よさに気づいていく、このよ うな新たな地域づくりの大きな核になり得るものかなと思っています。なので、 新しい自分づくりと地域づくりが一体的に進んでいくことが新しいまちづくりで あり、学校づくりであると思っています。これまでも小学校区を中心としたいろ いろな歴史や文化を学ぶ機会がありましたが、それを継承しながら新しいコミュ ニティ・スクールをつくっていく大きな足がかりになるものということで、そう いった学校づくりがこれからも計画どおり進んでいくことを期待しています。</p>
委員	<p>学校が非常に難しい職場だと言われるようになったのですが、それは家庭の教 育力、地域の教育力の低下が大きな要因の1つと考えています。家庭での躰、ま た地域で子どもたちを育てていく、そういったものができなくなってきた分が、 学校へのしわ寄せとしてきていると強く感じています。</p> <p>今回の教育大綱は、子どもの教育にある程度絞ったかたちでつくられているの で、次回の教育大綱も子どもの教育にある程度絞ったものになるのか分からない ですが、成人教育の重要性、子どもを育てながら、親、保護者も一緒に育って いく必要があると感じています。不登校は大きな課題だと思うのですが、学校へな かなか適応ができないというだけが理由ではなく、学校へ行くための基本的な家 庭での準備ができていない、家のごみまみれ、服を洗濯してもらえない、学校へ 行くまでに家庭の中で登校をためらう子どもたちが結構います。そういった子 どもたちへの働きかけだけでは子どもは学校へ来ることはできません。なので、福 祉関係の市役所の部署とも協力しながら取組を進めていっている。なかなか相談 する人がおらず、子育てで悩んでおられる方というのは非常に多いと思います。 私の孫が3歳になり、私たち夫婦が子の近くにいなかったら、孫の体調が悪くな っても誰も面倒を見る人がいない、そのときに子は誰に相談するのかと心配をす ることがあります。そういった幼児期の相談相手がない、学校へ行くときどうす るかというのが、そのまま保護者の心配につながっていて、それが子どもの心配 にもつながっていることが結構あります。これまでも取り組んでいただしていま すが、成人教育の充実により、子どもの成長とともに、保護者や地域の成長につ ながる視点を加えていただけたらありがたいなと思います。</p> <p>また、子どもたちは、自分の思いや気持ちをスマホといった電子機器で、絵文 字などにして表現する場合があったり、いろいろな自分の思いや気持ちを同じ言 葉で表現する場合があります。自分の思いや気持ちをいろいろな言葉で表 現することの大切さの視点も必要だと思います。</p>
議長 (市長)	<p>今のお話で、家庭や地域の教育力というのを、前回お話をさせていただいたと 記憶しています。大事なところで、子どもが変わらなかつたら親が、家庭がかわ らなれないということにも連動してくるのかなと。成人教育、生涯学習でそういう ことについては捉えられる課題ではないかなと思っています。</p>

<p>教育長</p>	<p>それと以前から話が出ている、支援を必要とする子どもたちへ必要な支援をする。それも含めながら取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>人としてどう生きていくのか、子どもは子ども、大人は大人として、どういう責任を持って社会が何をしないといけないのか、子どもたちにどういう夢を持って進んでいってもらえるのかということを考えます。そうしたときに、人間力の育成については、基本的な理念として、第3期も引き続き継承していきたいと思っています。国、県の方向性を参酌して計画を決めていくという話があったとおり、例えば、県が言っている基本理念に、兵庫が育むところ豊かで自立する人づくりというのがありますが、私たちが言っていることと変わらないと思います。さらに、学校を中心とした地域づくり、コミュニティ・スクールの話は、新たな視点の中で社会とともに子どもたちの育成をする、そして社会も変わっていく視点も大事である。そういうところを含めて、基本方針も明確にしながら、生涯学習の話が出ていましたが、テーマは人生100年について、学びの推進と考えていますが、いかに生きていくかということを含めて考えていきます。どう子どもを育てていくか、その悩みについても話ができる社会づくりをどうするかということも含めて、大事な視点だと思います。生涯学習という視点も非常に重要な視点であると認識していますので、このことについては、第3期の重点的な1つの項目として取り入れていきたいと思っています。次回の総合教育会議では、策定委員会の素案とすり合わせながら、いろいろな意見交換をし、進めていく体制ができればと思っています。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>生涯教育、生涯学習というのを以前から長きにわたって取り組んできている。やはり大事なことは、培ったことは貴重なものであるという話です。それを理解した上で、しっかりと進めていければと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>家庭の教育力という話も出ましたが、コロナ禍でたくさんの家庭が経済的に大変なのですが、外食をすること、外で食事をするのが減り、反対に家庭の中で食事をする、家族で食事をするが増えたという話題になっています。そこで、ピンチをチャンスにはないが、これまで加東市が取り組んできた食育を通して家庭の教育力ではないですが、そこを改めて切り込む1つの機会ではないかと感じています。さまざまな理由で食事が満足にとれなくて、子ども食堂等が開かれてきたという経緯があり、そんな中でコロナ禍を迎えているので、大変な家庭や困っている子どもたちを含めながら、たくさんの家庭が食事を家でとることが増えた中で、食育をどう広めていくか、大きなチャンスだと思っています。</p> <p>加東市が取り組んできたICT教育ですが、1人1台のタブレットで確かな学力を保障していくことは素晴らしいことだと思っています。たくさんの予算がかかり、教職員も研修をしながら力をつけていけないのですが、ICT教育については、大学生がオンライン授業になり、学校へ行かなくても家にて授業ができてしまう、学校教育の意義が問われている状況ですが、やはり人の中でのしか育たないので、集団教育や学校行事等ができない、群れる機会が少ない、そんな中で子どもたちもストレスを抱えているのではないかなと思います。その個別の部分と集団の部分の違いについても視点を当てていながら、コロナ禍を通して学校教育の意義、集団教育の意義も考えていただけたらありがたいと思っています。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>いただいた意見を聞く中で、事務局側から何かあればお願いします。</p>

<p>学校給食センター所長</p>	<p>食育のご意見をいただきました。確かに新型コロナウイルスの影響で、子ども食堂の問題とか、食事の栄養価の問題とか、いろいろと意見をいただいているところがあり、給食だよりや、食育だよりで、そういったところをカバーするように、親子や家庭内で栄養価を考えた簡単レシピ、献立などを情報提供することにも取り組んでいます。社会全体が、効率的な便利さを追求する結果、食生活にも効率的な便利さが求められ、食の質が低下するということが懸念されています。そういった中で、児童・生徒が健康になることを自ら判断し、選択し、実践していく力をつけるため、平成29年4月に食育推進専門員を給食センターに配置し、食育を推進しています。</p>
<p>生涯学習課長</p>	<p>家庭の教育、地域の教育という話で、特に地域の教育については、社会教育委員の会議の中でも生涯学習に取り組んでいく必要があるのではないかとご意見をいただいています。その部分については、第3期教育振興基本計画の中で、どのようなかたちになるか分かりませんが、取り組む方向性を示していきたいと思っています。</p>
<p>まちづくり政策部長</p>	<p>さまざまなご意見をいただいた中で、新たに取り組むべき項目は、取り入れていく計画をつくっていききたいと思っています。教育振興基本計画と教育大綱の整合を図っていくのはもちろんのことですので、いろいろな項目について関係部署と調整を図り、かたちにしていきたいと考えています。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>今の事務局からの説明について、あるいはほかのことでも結構ですので、何か意見はありますでしょうか。 ないようですので、協議事項の1番、2番については終わります。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>(3) 新型コロナウイルス感染症への今後の対応について</p> <p>次に、新型コロナウイルス感染症への今後の対応について協議をいただきます。新型コロナウイルス感染症の拡大により、長期間の休校、新しい生活様式に基づいた学校の再開、これまで経験がない事態の対応について、教育委員会、教職員、学校関係者の皆さんにご尽力いただいているところです。 現在も感染拡大が続いており、まだまだ予断を許さないという状況にあります。これは長期戦になるだろうと思っています。ある医療関係者の話を聞くと、8か月でおさまればいいが、まずその期間ではおさまらず、1年半以上かかることもありえる。そういう状況の中で、子どもたちの健康を守りながら教育の機会を確保していかなければならない。今回、教育現場においてこの両立をしていくために、新型コロナウイルス感染症への対応について意見交換をしたいと思います。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>資料No. 3に基づき事務局から説明</p> <p>対応という部分でこんなことがあればということのを伺いたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>まずは、本当にきめ細かく状況に合わせて対応をしていただいていることに、お礼を言いたいと思います。 ここ数日、再び危機的な状況が迫ってきているのがひしひしと、市長からの防災行政無線を使った放送を通して感じ取っているところです。感染が加東市内にも広がってくると困るのですが、もしも学校関係者や子どもの中に感染者が出た場合の対応について、ある程度決められていることがあると思うので、聞かせて</p>

<p>こども 未来部 参事</p>	<p>いただきたいです。</p> <p>学校関係者や児童生徒に感染者が出た場合ですが、まずその感染した人がどれだけの人たちと接触をしているのか、どれだけの範囲を動いているのか、そういうことを検証するということが大事になってきます。学校の中でさらに感染が広がる可能性がどれだけあるのかということで、臨時休業の範囲を学校全体にするのか、クラスだけにするのか、濃厚接触をした人だけにするのかを、健康福祉事務所と相談をしながら決めていくこととなります。感染がわかった時点で、消毒作業は必要となりますので、いったん学校を何日間かは閉めざるをえないという想定はしています。そういうことがないことを祈るばかりです。</p>
<p>委員</p>	<p>一律に決めても一律にできない状況ですが、2、3日様子を見ましようかと言える状況でもないの、その場その場で判断をして、子どもたちを守っていかなければいけないということを感じています。</p>
<p>委員</p>	<p>説明の中で、願っています、祈るばかりですという言葉が多かったのですが、まさにそのとおりです。私も退職して現場を離れていますが、これだけの人数の子どもたちの命を預かることの怖さみたいなものがまだまだ意識としてあります。学校長の判断で各行事をやるやらないとなったときに、必ず、やってほしいという保護者と、本当にやるのかという保護者に、割合は別にして、分かれます。そのときに非常に苦慮しますし、絶対安全だということは言い切れないので、判断というのは本当に難しくなってくると思っています。事前に校長会等で相談はされると思いますが、ある程度の共通のマニュアルは示していただいたほうが学校長としては判断がしやすいです。宿泊を伴うが修学旅行だけは行かせてやりたいという話を聞きますが、2、3日違うと全く違った状況が生じる状態ですので学校も判断が難しいと思います。</p> <p>それから、夏季休業日の短縮に伴う熱中症対策が資料に挙がっていますが、1、2週間やってみて、具体的に取り組んだことが学校現場でどんな状況になっているのか、問題点とかは出てないのかということ、時期を見て何度か検証しながら手を加えていただけたらと思います。</p> <p>話は少しそれますが、一番怖いのは地震だと以前から市長が言われていました。水害は、ある程度想定を事前にできますが、コロナ禍で複数重なった場合はどうするか、実際おきたときに慌てないようにするため、想定、備えも必要だと思いました。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>自然災害の中で、大雨や台風は早い段階から正確な情報が入ってくるが、地震だとなかなかそうはいかない、何十年というスパンの中で可能性がどうか、それが明日なのか明後日なのかは分からないからという話をこれまでしてきました。そのことも、今回の新型コロナウイルスを経験する中で、本当にまさかこんなことが起こるとは誰も想像をしてなかったと思います。しかし、今、現実起こっています。根拠のない休校措置という批判もありましたが、我々は感染する要因は排除していかないといけないと思っています。国から指示、要請があれば、それに従っておけば非常に楽だということをおっしゃりますが、子どもたちのことを考えると、休校措置はやむを得なかったと思っています。</p> <p>また、学校再開という話があったときに、市民の皆さんから手紙をいただきました。学校再開なんて何を考えているのかという意見もあり、やはり心配だという気持ちもわかります。一方で、子どもたちの学びの保障も大事ですので、非常に悩ましかったです。我々は、感染のリスクがあるとすればそれに対処してい</p>

	<p>なければならぬ、子どもたちの学びを保障していかなければならぬ、と思っています。このまま感染が落ち着く方向に進めばいいのですが、さらに広がる方向に進むと色々な影響が出てきます。次の一手をどうすればいいのかという悩ましい状況です。</p>
<p>委員</p>	<p>身近に危機が迫ってきた中で、やはり一番心配するのは基礎疾患等を持っている子どもたちです。社会一般でも若者と高齢者とでは受けとめ方が違って、高齢者は外出するのを控えていると言われていたのですが、若者はそうでない。学校の中では基礎疾患を持っている、特に免疫治療をしている子どもたちも何人かいるのではと思っています。そんな子どもたちについて、教育の保障と、不安を感じたら休んでいいよという安心感を保障しないといけないと思っています。そういう子どもたちのことは把握をされていますか。</p>
<p>こども未来部参事</p>	<p>6月に学校を再開する前に、校長会の中で、医療的ケアが必要である子どもたち、基礎疾患のある子どもたちの把握について確実にするようにと話をしています。それぞれの主治医、学校医と相談したうえで、個々の子どもたちの登校の判断をしていくこととしています。危険が大きくなってきたら休んだ方がいいという判断をすることも必要だと思っています。あわせて、そういう子どもたちの学びの保障ということも大事だと捉えております。</p>
<p>委員</p>	<p>新型コロナウイルスについては、先ほどから話が出ているとおり、全く想定していなかった。個人的にも家で、毎日ネットで発生状況を確認したりして生活していますし、地域でも行事やイベントを取りやめたり、縮小したりして活動しています。市長をはじめ市の関係者、学校の関係者は、子どもたちを守っていかないとはいけませんので、その都度の対応というのは努力いただいて判断をさせていただくという状況ですが、本当にご苦勞をいただいていることに関しては感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>それから、先ほど市長から話がありましたように、ある程度このあたりでおさまるのか、まだまだ広がるのかは、今は誰もわからない状態であります。皆さんには、自らの健康にも留意いただきながら、子どもたちの安全も守っていただきたいと思います。</p>
<p>議長 (市長)</p>	<p>新型コロナウイルス対策は、何が正解なのかは本当にわからない状況だと思います。結果として、終わったときに、この方法でよかったのか、もっとこんな方法があったのではないかと、さまざまな意見が出てくるかと思いますが、何が正解なのかというのがわかるようにしたい、そんな思いでいます。</p> <p>いずれにしても、3点について協議をいただきまして本当にありがとうございました。</p> <p>4 その他 なし</p> <p>5 閉会</p>